

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】平成30年7月5日(2018.7.5)

【公表番号】特表2016-519255(P2016-519255A)
 【公表日】平成28年6月30日(2016.6.30)
 【年通号数】公開・登録公報2016-039
 【出願番号】特願2016-514457(P2016-514457)
 【国際特許分類】

F 0 4 D 29/60 (2006.01)

【F I】

F 0 4 D 29/60 F

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年5月24日(2018.5.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

空気ダクト (3) の壁を形成する内壁 (3 i) を有するケーシング (7) と、ケーシングを貫通し、前記ダクト (3) へとつながり、内視鏡の通路を形成する少なくとも 1 つの開口部 (7 r) とを備えるタービンエンジンにして、開口部 (7 r) は、タービンエンジンの動作時に、内壁 (3 i) の延長部に端面部分 (8 s) を有する止栓 (8) によって閉鎖されるタービンエンジンであって、ケーシングの内壁の摩耗インジケータは、開口部の縁部においてまたは開口部内につながるように止栓 (8) またはケーシングの内壁 (3 i) に結合されることを特徴とする、タービンエンジン。

【請求項 2】

摩耗インジケータが、止栓 (8) の前記端面部分 (8 s) に機械加工された穴 (8 l) の形状である、請求項 1 に記載のタービンエンジン。

【請求項 3】

穴が円形または楕円形である、請求項 2 に記載のタービンエンジン。

【請求項 4】

止栓の前記端面部分 (8 s) が、ケーシングの内壁 (3 i) と面一である、請求項 2 または 3 に記載のタービンエンジン。

【請求項 5】

摩耗インジケータが、内壁 (3 i) に機械加工され、ケーシングの開口部 (7 r) によって外側から視認できる切欠部 (3 s) である、請求項 1 に記載のタービンエンジン。

【請求項 6】

穴 (8 l) または切欠部 (3 s) の深さが、エロージョンによって除去されやすいケーシングの内壁厚みに対応する、請求項 2 から 4 のいずれか一項に記載のタービンエンジン。

【請求項 7】

摩耗インジケータを有する内視鏡用通路を形成する開口部が、圧縮機段の出口のディフューザの下流側のエルボ (3 c) に配置される、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載のタービンエンジンを形成する遠心圧縮機。

【請求項 8】

前記開口部 (7 r) が、第 1 の圧縮機段の出口のディフューザの下流側のエルボに配置

される、請求項 7 に記載の二段遠心圧縮機。

【請求項 9】

摩耗インジケータを有する内視鏡用通路を形成する開口部が、ロータのブレード先端に対向するアブレイダブル材料コーティングの近くに配置される、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載のタービンエンジンを形成する軸流圧縮機。